



電波政策ビジョン懇談会 ヒアリング

日本放送協会
平成26年4月4日

本日のヒアリング ご説明内容



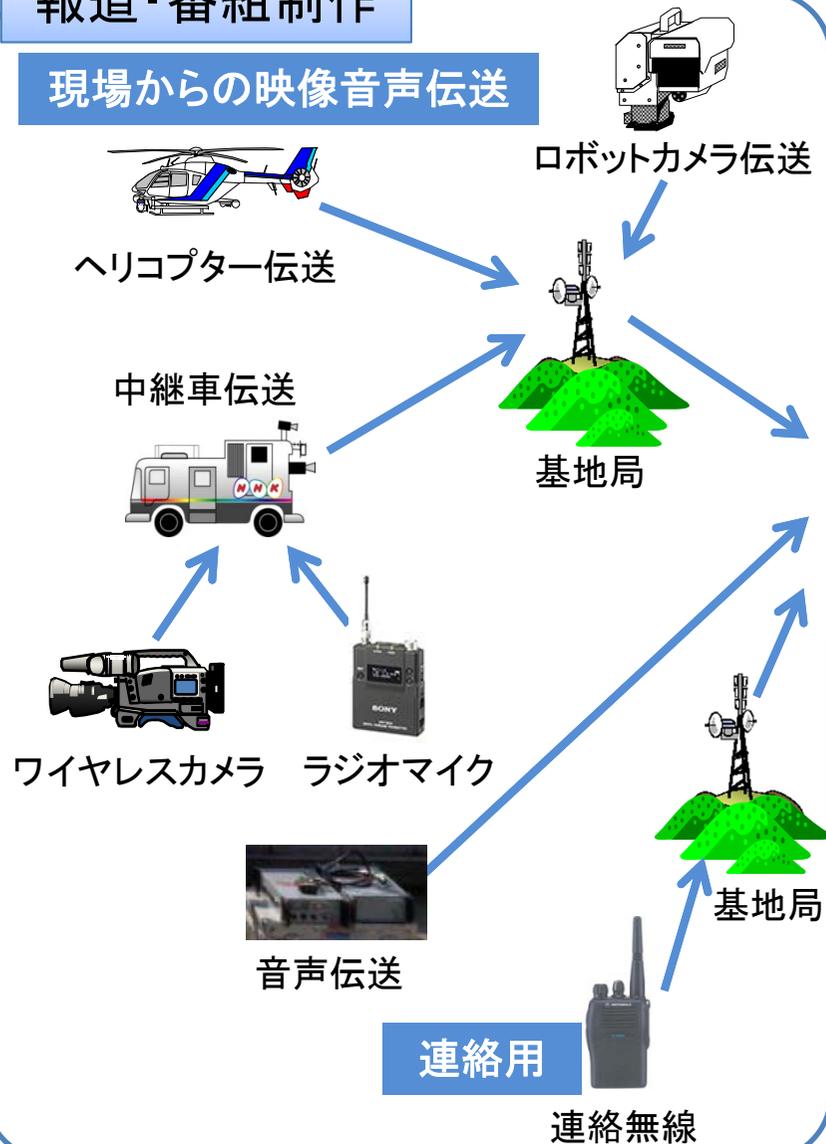
1. NHKにおける電波利用概要について
2. 東日本大震災におけるNHKの取組み
3. 周波数再編の状況
4. 放送のイノベーション
5. 2020年における8Kスーパーハイビジョン

NHKにおける電波利用概要

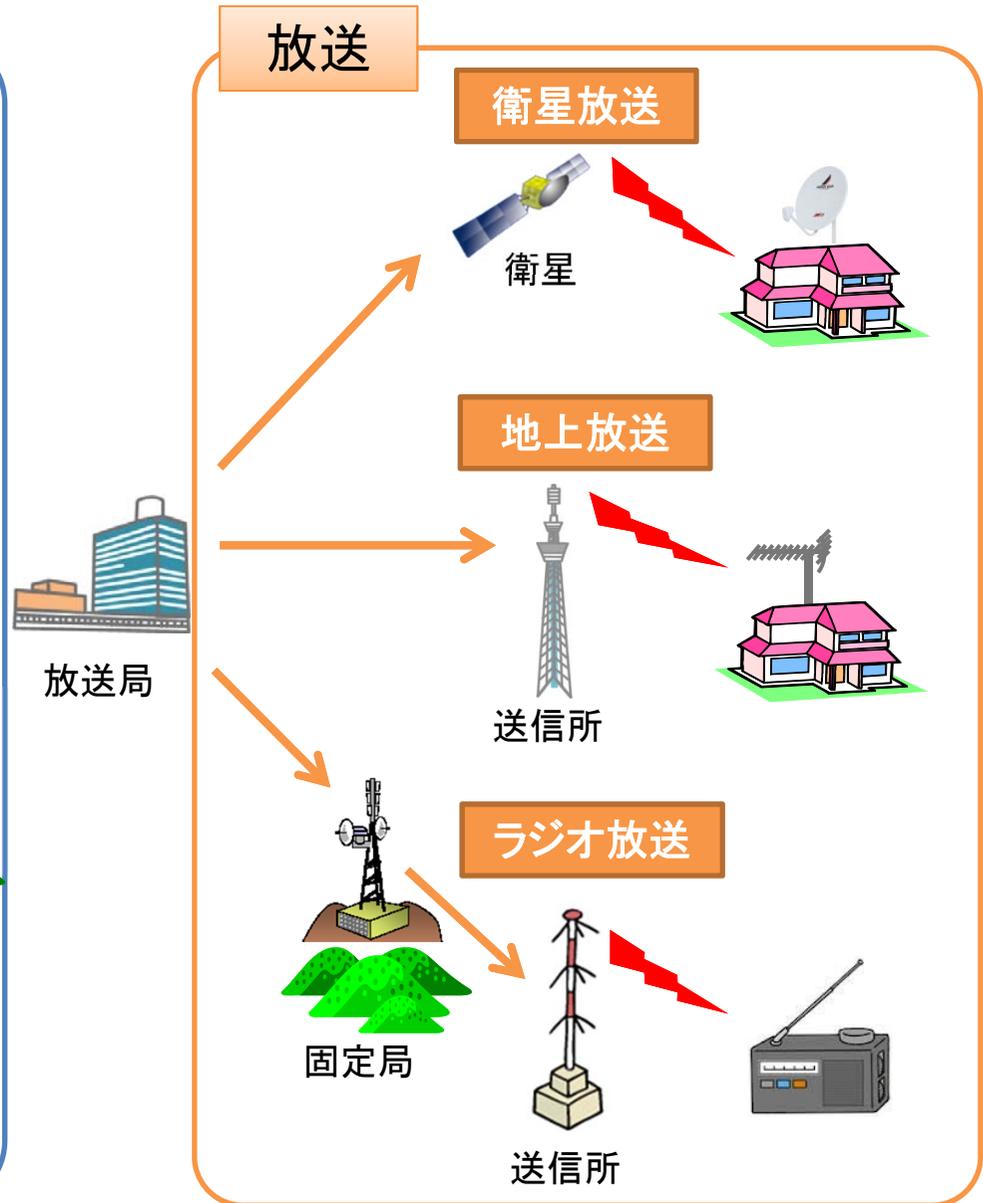


報道・番組制作

現場からの映像音声伝送



放送



東日本大震災における伝送設備例



- ・ 緊急報道、番組制作用に整備した設備で各地の被災状況をいち早く中継
 - 海岸や放送会館屋上に整備した、遠隔操作できるロボットカメラ
 - 防振カメラ・伝送設備を搭載した、取材用ヘリコプター
 - どこからでも迅速な伝送が可能な、中継車

電波を利用することで現場の状況を全国に放送する事が可能
⇒放送メディアの重要性を考慮し安定的かつ継続的な周波数確保必要



ロボットカメラ

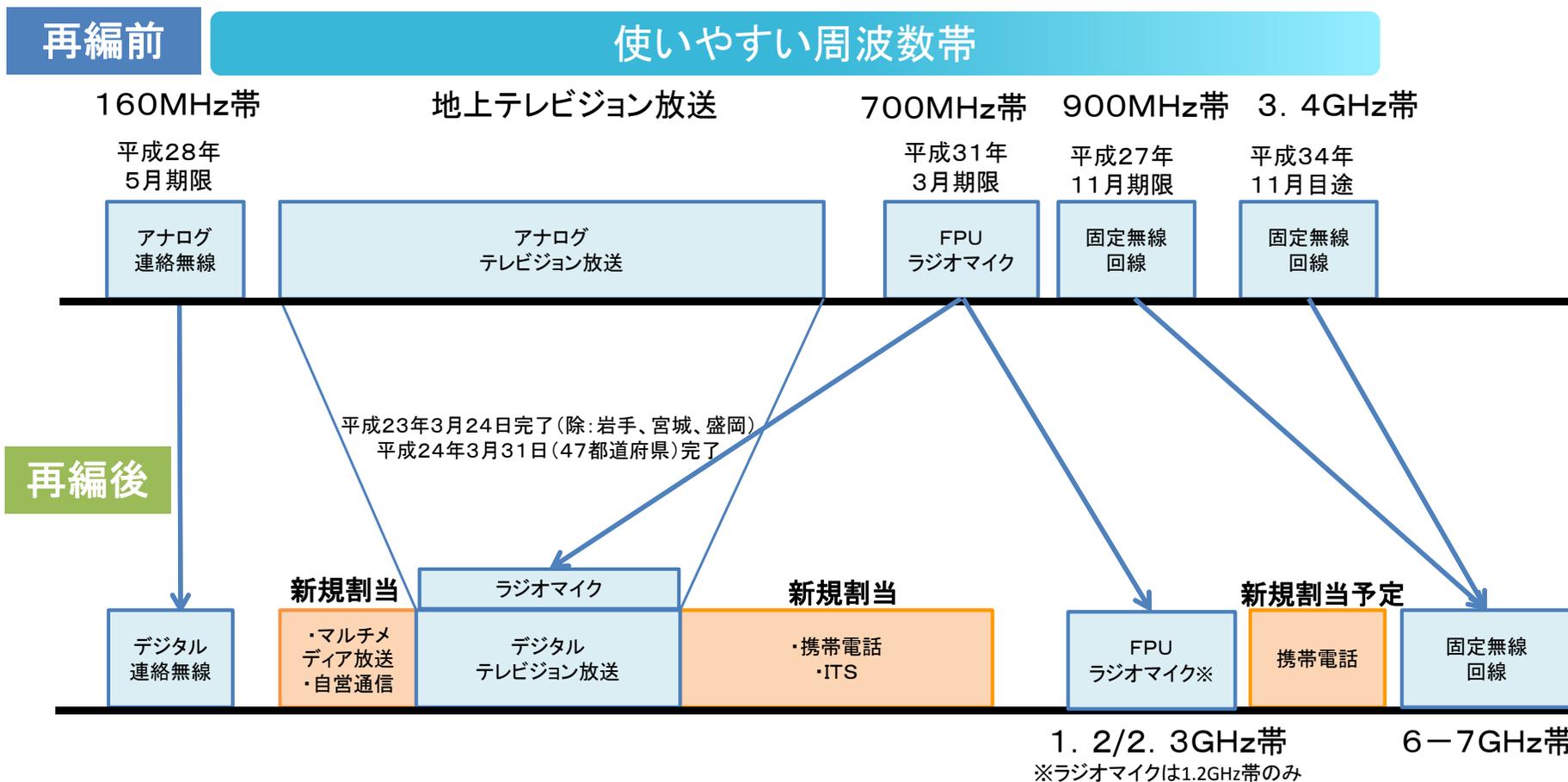


取材用ヘリコプター



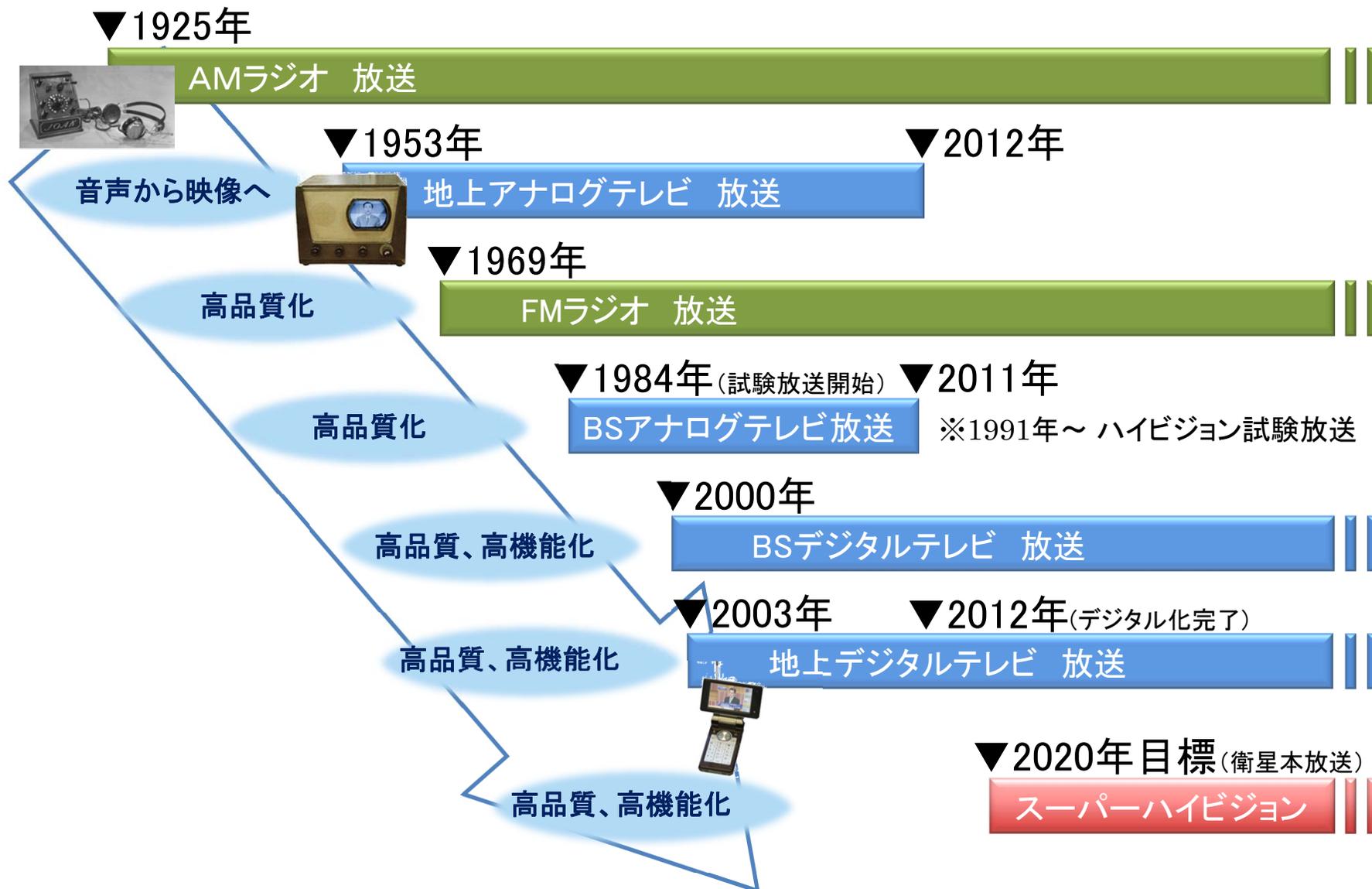
中継車

周波数再編について



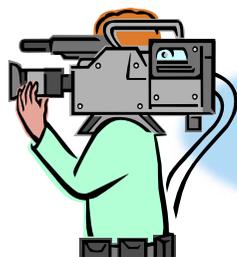
周波数再編には、移行先の新周波数帯に適した設備開発や整備期間の確保、移行に要する経費負担等の条件を十分に考慮することが必要

放送のイノベーション

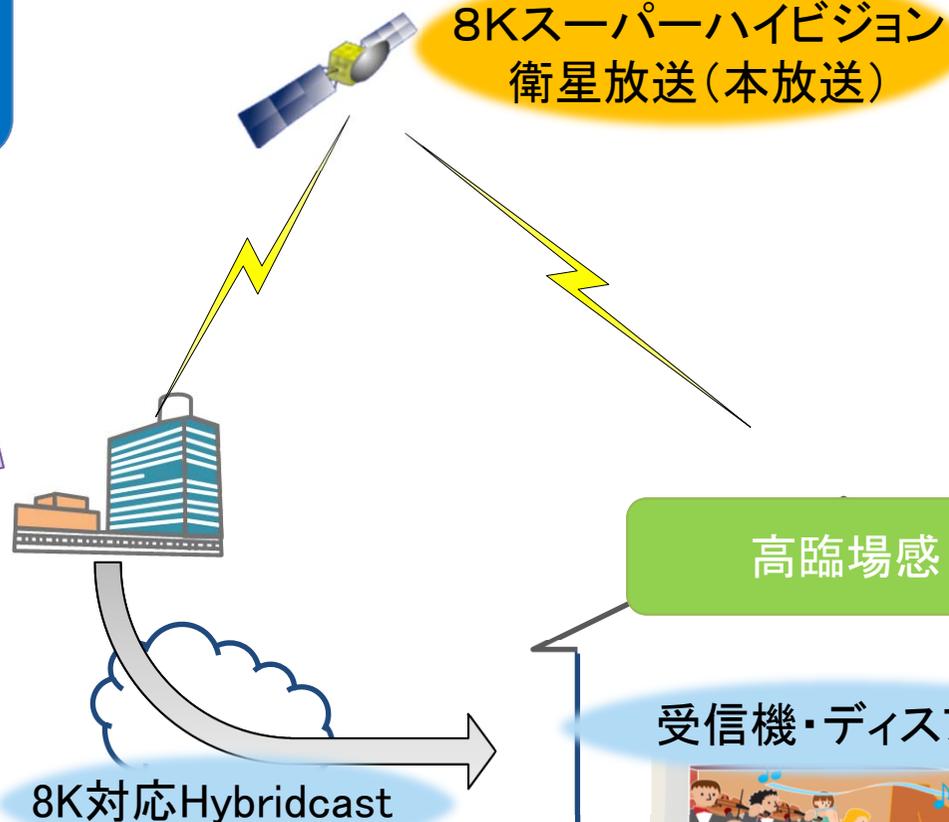


2020年における8Kスーパーハイビジョン

＜実現のために＞
研究開発の推進
周波数の確保



番組制作



高臨場感

受信機・ディスプレイ



スピーカー22.2ch

<参考資料> 意見提出について



1. 周波数再編の推進について

周波数再編の推進検討にあたっては、既存無線システムの設備規模、新たな周波数に適した設備の開発や整備期間の確保、移行に要する経費負担などの条件が十分に考慮される必要がある。また、既存無線システムと新無線システムの共用期間においては、既存無線システムに支障を及ぼす事がないように検討される必要がある。

2. 「新しい電波利用の姿」に対して

NHKは、災害時に迅速かつ的確に必要な情報を提供し、国民の安全安心、生命財産を守るため、いかなる状況においても放送を継続できるよう機能強化を図っている。

新しい電波利用の検討にあたっては、こうした放送メディアの重要性に鑑み、ひっ迫した電波の状況下においても公共放送としての使命が達成できるよう、放送業務に必要な周波数が確保される必要があると考える。

8Kスーパーハイビジョン放送の実現に必要な放送サービスおよび放送事業用の周波数の割り当てを要望する。また、新たな放送サービスの実現に向けた周波数資源確保のための研究開発への支援等についても必要と考える。